

2024年度  
東京大学

トライリンガル・プログラム

スペイン語

メキシコ研修報告書

## ... y nos fuimos a México

### El Programa Trilingüe (TLP-Español) de la Universidad de Tokio

En 2024 tuve la oportunidad de volver a México para acompañar a nuestros alumnos cursantes del Programa Trilingüe (TLP) de la Universidad de Tokio. Durante dos semanas (del 1 al 14 de septiembre), se desarrolló un plan especialmente dispuesto para afianzar los aprendizajes llevados a cabo en las aulas durante tres semestres.

El Centro de Enseñanza para Extranjeros (CEPE) de la Universidad Nacional Autónoma de México (UNAM) nos acogió durante la primera semana y en sus aulas nuestros alumnos tuvieron la oportunidad de compartir clases de lengua española, con los profesores Estéfany Macías y Rino Carlo Torres. También pudieron disfrutar de sesiones preparadas por especialistas, acorde a su nivel de aprendizaje sobre arte, historia y cultura de México en diferentes periodos: “Historia y arte de Teotihuacán”, curso impartido por la maestra Lizeth Azucena Cervantes Reyes y “La reconstrucción del Estado mexicano y el papel del nacionalismo (1920-1970)”, a cargo de la maestra Judith de la Torre Rendón.

De igual manera se cumplió un programa de visitas a prestigiosas instituciones como el Museo Nacional de Antropología e Historia, con la guía del doctor Alonso Guerrero. De igual manera, nuestros alumnos pudieron atender una conferencia sobre “El impacto de la religión en los usos y costumbres del pueblo mexicano”, impartida por la doctora Anne Staples y organizada por el doctor Matías Chiappe Ippolito, del Centro de Estudios de Asia y África, de El Colegio de México.

Como ha sido una actividad muy provechosa en los años pasados, también en esta oportunidad se llevó a cabo un intercambio de nuestros alumnos con estudiantes

de lengua japonesa, en la Escuela Nacional de Lenguas, Lingüística y Traducción (ENALLT) de la UNAM, con presentaciones en español y japonés respectivamente, propiciando, además, un encuentro amistoso y fraterno.

Después de una conferencia sobre la actividad del muralismo en México, impartida por el doctor Juan Carlos Campuzano, visitamos el Museo Frida Kahlo y el mercado popular de Coyoacán. El fin de semana fue igualmente intenso, con una visita al centro histórico de la Ciudad de México (Palacio de Bellas Artes, Zócalo, Catedral, Palacio Nacional y ruinas del Templo Mayor). El domingo hicimos una excursión a Teotihuacán, una experiencia para la cual nuestros alumnos habían sido previamente estimulados con información histórica y audio visual.

La segunda semana se llevó a cabo en la Escuela de Agricultura Ecológica (U Yits ka'an), en Maní, población situada al sureste de Mérida, la capital del Estado de Yucatán. Los alumnos pudieron conocer las dinámicas de la escuela y estar en contacto directo con la naturaleza selvática. En la escuela se imparten clases sobre el cultivo de alimentos (maíz, chile, algunas frutas y legumbres), según las técnicas tradicionales.

La excursión a Yucatán se complementó con una visita al centro histórico de Maní, al antiguo Convento de San Miguel Arcángel, edificado en el siglo XVI, al cenote de Kuzamá y al balneario de Puerto Progreso, en el Golfo de México. Fue un programa muy intenso y provechoso, como parte importante del aprendizaje inmersivo en la cultura y la lengua españolas.

Una vez más agradezco a la Universidad de Tokio, a sus autoridades, al Center for Global Communication Strategies (CGCS), a los colegas profesores y al programa TLP por brindarme esta oportunidad que ha permitido vivir una experiencia de mucho beneficio para el futuro profesional de nuestros estudiantes. (Profesor Gregory Zambrano)



2024年度  
東京大学  
プログラム  
スペイン語  
研修報告書

## 謝辞

### 宮地 隆廣（TLP委員）

今回のメキシコ国際研修に参加した学生のみなさんはTLPスペイン語の第五期生にあたります。第一期生と第二期生は新型コロナウイルスの感染拡大により海外へ渡航できず、研修はオンラインで行いましたので、実際に現地に渡航した研修はこれが3回目となります。行動が制限される状況はもはや過去のものという感がありますが、今年度のTLP委員として研修の準備に携わる間、私は当時のことや、それ以前のことを思い出すことがよくありました。

私は大学4年生の時に、スペイン語とラテンアメリカ政治を学ぶ目的でメキシコに1年間滞在しました。私にとっては初めての海外で、そこで出会った人々、目にした風景、日本とは全く異なる食事の数々など、そこでの経験は20年以上過ぎた今でも鮮やかに覚えています。そして、感染症によって出国がままならなかったことを重ね合わせると、こうした身体を通じてスペイン語圏を知る機会が貴重であったことが思い起こされました。メキシコ留学の経験者として、今回の研修をサポートすることができたことをうれしく思っています。

過去を振り返るだけでなく、これからについても考えさせられることがありました。今回の準備で最も悩んだこととして、原油など原料の国際価格が上昇したことに円安が重なったことに伴う、費用の増加への対応があります。学生のみなさんの負担をなるべく抑えつつ、これまでの質を維持することを目指したものの、来年度以後に状況が改善される見通しは立っていません。今後はTLPの研修を一つに絞るのではなく、より柔軟で多様にする必要があるように私は考えていますが、研修のあり方はTLPを運営する教員が今後取り組む課題になりそうです。

これまでと同様、今年度の研修も多くの人の支えがあって実現しました。まず、TLPのネイティブ教員であり、研修を引率したグレゴリー・サンブラノ先生は、訪問先での活動に関する打ち合わせから、個別の学生に対するケアまで、研修全般の準備を主体的に進めて下さいました。余談ながら、先生に私が初めて会ったのは上述のメキシコ留学の時に、このような形で一緒に仕事できたのは本当に奇遇なことでした。また、先生と一緒に引率を担当して下さいました大学院生の武田彩花さんもメキシコ渡航前の段階から準備に参加して下さいました。スペイン語部会の石橋純先生、受田宏之先生、そして棚瀬あずさ先生には、メキシコ側の関係者とのコンタクトや大学内での書類作成でお力を貸して下さいました。事務的な手続きに関しましては、国際グローバルコミュニケーションセンターの荒井裕美さん、国際交流センターの重高史さんと宮川慎司さんに大変お世話になりました。準備の過程では、学生のみなさんを含め、大学の関係者の方々にご迷惑をおかけすることがありましたが、それらは全て私の不手際によるものです。

学生のみなさんを受け入れて下さったメキシコの方々も数多くいらっしゃいます。協定校であるメキシコ国立自治大学 (UNAM) 語学学校 (CEPE) のZazil Sobrevilla先生とLuis Miguel Samperio先生、Alejandra Silva先生、UNAMの言語・言語学・翻訳学校 (ENALLT) のElisa Akemi Shimazaki先生とRicardo Cornejo先生、Adelia Peña先生、もう一つの協定校であるコレヒオ・デ・メヒコのMatías Chiappe先生とAnne Staples先生、国立人類学博物館のAlonso Guerrero先生、そしてマニの農民学校U Yits Ka'anを営むAtilano Ceballos神父にもこの場を借りて御礼申し上げます。

最後に、移動や宿泊の手配では、株式会社ヴィジュアルノーツ・グランドツアー事業部の松本晃様、そしてViajes Toyo Mexicanoの松枝勝利様にご対応下さいました。予測が難しい事態に直面しつつも、柔軟にご対応下さいましたことに心から感謝しております。

# 目次

01 | 巻頭の言葉

03 | 謝辞

04 | 目次

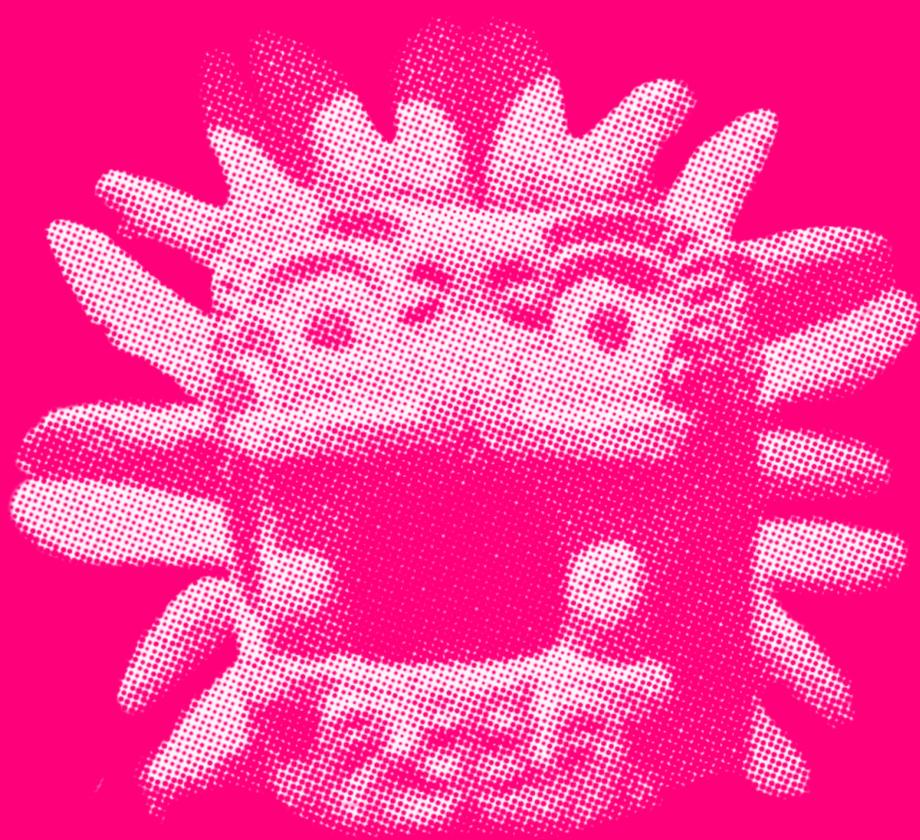
05 | 日程表

07 | 活動報告

10 | 参加者エッセイ

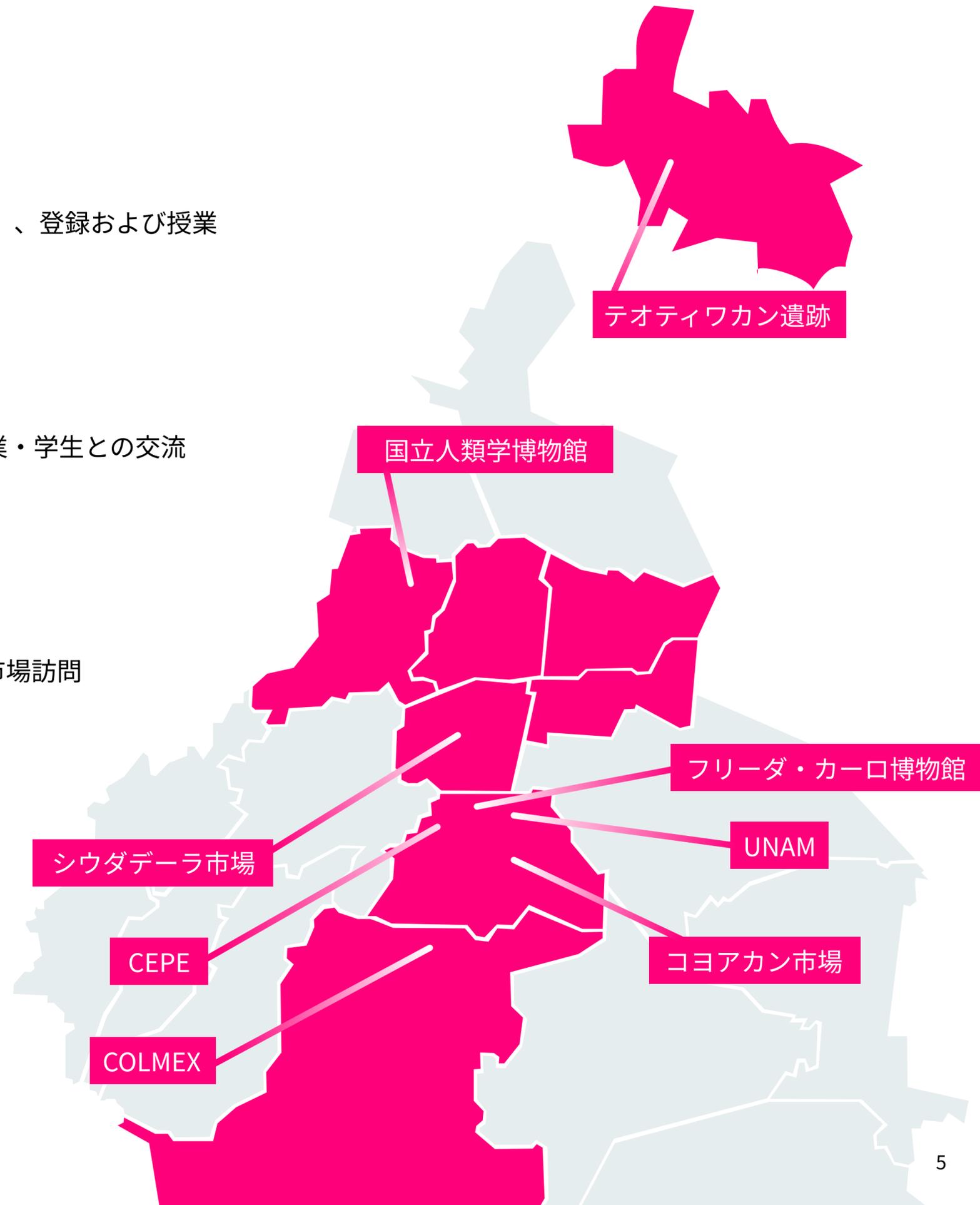
荒井太久／片山蒼太／金井優衣／金成華琳／川田寛／北島有悟／栞高健人／設樂創平／  
篠原大我／清水崇源／関亮輔／田中成美／田邊成／畑田直樹／馬場悠／松井新／松井響／  
松原梨夏／宮川貴浩／山崎夢芽／吉川理子

57 | 編集後記

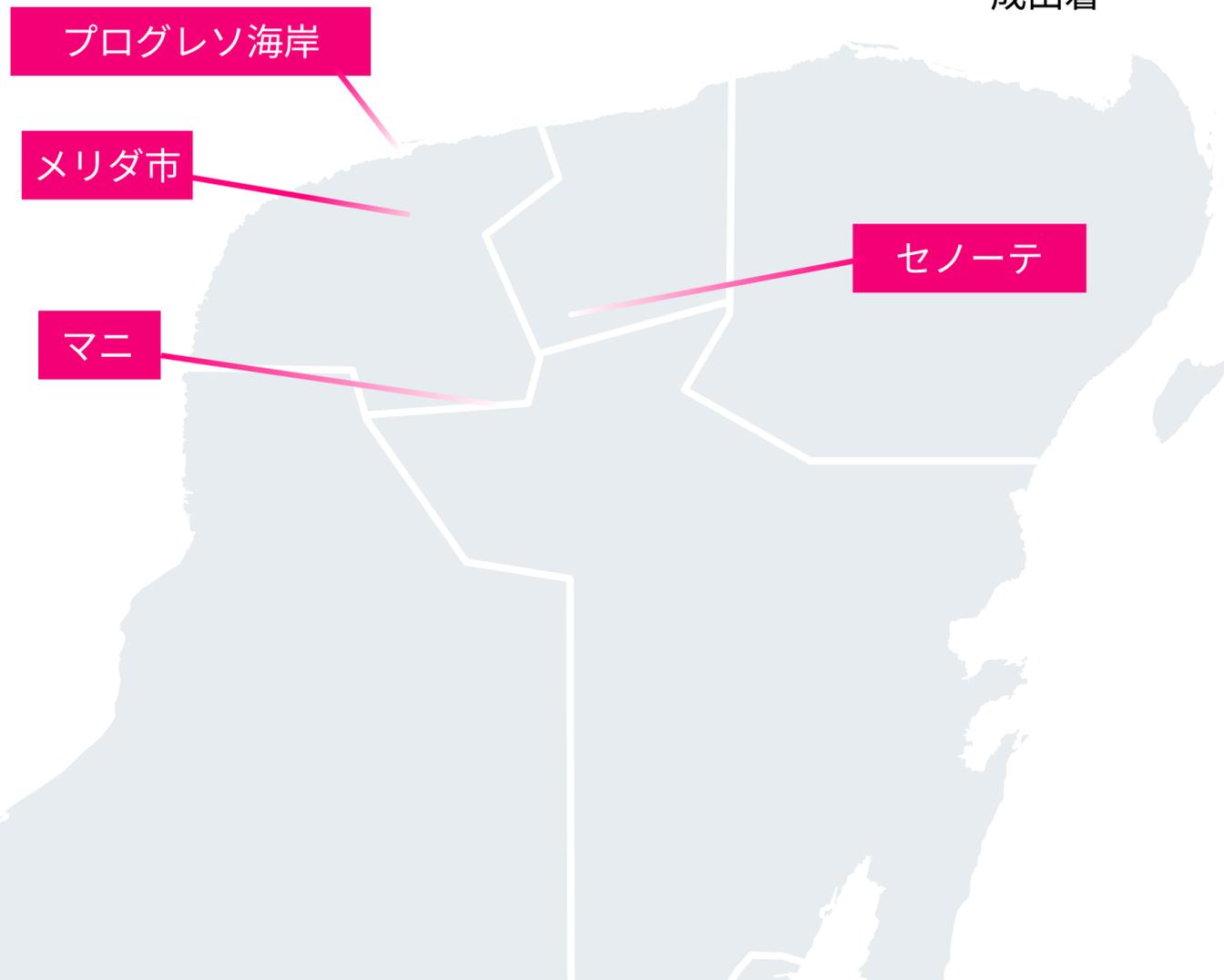


# 日程表

- 9月1日 成田空港集合、出発  
メキシコシティ着
- 9月2日 UNAM（メキシコ国立自治大学）CEPE（語学学校）、登録および授業
- 9月3日 午前：CEPEにて授業  
午後：国立人類学博物館見学
- 9月4日 午前：CEPEにて授業  
午後：COLMEX（コレヒオ・デ・メヒコ）にて授業・学生との交流
- 9月5日 午前：CEPEにて授業  
午後：UNAM言語センターで授業・学生との交流
- 9月6日 午前：CEPEにて授業  
午後：フリーダ・カーロ博物館見学、コヨアカン市場訪問
- 9月7日 午前：シウダデーラ市場訪問  
午後：歴史地区訪問
- 9月8日 テオティワカン遺跡訪問



- 9月9日      メキシコシティ発  
                 メリダ着、マニにある農業学校へ移動
- 9月10日     午前：農業学校にて授業（養蜂／伝統医療）
- 9月11日     午後：セノーテ訪問、ウシュマル遺跡訪問を試みる
- 9月12日     プログレソ海岸訪問  
                 午前：メリダ市内を観光
- 9月13日     午後：メキシコシティへ移動  
                 午前：UNAMおよびCOLMEXの学生と会合
- 9月15日     午後：メキシコシティ発  
                 成田着



# 活動報告

## CEPEでの授業／田中成美

メキシコ研修の最初の1週間の平日はUNAM併設のCEPEと呼ばれる語学学校で授業を受けました。毎日9:00-11:00が文法、11:00-13:00がメキシコの文化の授業で、それぞれ別の先生が担当していました。1限の文法の授業の先生はとても陽気な方で、授業の内容を楽しんでいたらあっという間に2時間が経ってしまいました。授業は日本で学んだ文法知識をベースにしつつ、新しい単語や表現が学べるようになっていました。2限はメキシコ文化史の授業で、テオティワカン文明、近代メキシコの政治史、壁画運動やフリーダカーロなど様々なトピックを扱いました。メキシコの文化にかなり詳しくなれた、と言いたいところなのですが、1限と比べてスペイン語のレベルが急上昇し、知らない単語だらけでついていくのが大変でした。可能な限り内容を理解する努力はしましたが理解できなかった部分も多く、まだスペイン語の実力が不足していることを痛感しました。

## 国立人類学博物館見学／川田寛

CEPEでの午前の授業を終えた私たちは、国立人類学博物館（Museo Nacional de Antropología）へバスで向かいました。メキシコシティの中心部へ近づくにつれ徐々に変わっていく景色を楽しみながら、30分ほどで到着しました。入り口で荷物を預けて中へ入ると、まず目に入るのが巨大な滝です。博物館は、滝を取り囲むようにいくつかの建物に分かれており、建物ごとに、先史時代、アステカ、マヤなどの各文明の展示がなされています。建物に入ると、夥しい数の石像、仮面、楽器、装飾品などが並んでいます。解説は基本的にはスペイン語で、有名なものに関しては英語も併記されています。ガイドさんがついてくれましたが、説明が全てスペイン語なので、聞き取るのがとても大変でした。ただ、CEPEの授業で扱った彫像の本物があったり、素敵な孔雀の羽の装身具があったり、謎の動物を象った笛があったりと、見ているだけで面白いです。雰囲気としては、日本の東京国立博物館に近いかもしれません。注意事項としては、写真撮影OKの展示であっても、変顔をしたり、寝そべっている彫像と同じポーズで写真を撮ったりするような真似はやめましょう。アンデス文明を侮辱していると警備員に勘違いされ、スペイン語で怒られます。一日かけて回るような規模の由緒ある博物館なのですが、私たちの自由行動はわずか30分で、展示の全てを見ることができませんでした。集合時間になると、私たちは博物館の土産物屋に行きました。魅力的な商品も多いのですが、後日訪れる市場の方が物価が安いので、あえて買わずにおくのもアリでしょう。また、博物館からの帰りに、スコールを経験しました。雨季の割には晴れる日の多いメキシコシティですが、日によっては夕刻に激しい雨が降ります。降りしきる雨と一向に抜けられない渋滞のなか、私たちはホテルへの帰途につきました。

## COLMEX訪問（授業・交流）／榎高健人

グレゴリー先生が大学院生時代？を過ごしたと言われるコレヒオ・デ・メヒコに行った。学食で昼食を取った後、講演会まで時間があつたのでキャンパス内を散策した。決して広くはなかったが、猫が数匹いたのが印象的だった。その後、「メキシコの慣習と伝統への教会の影響」というテーマで1時間ほどの講演会を聞いた。日本語の通訳をしてくれる教員の方がいたが、全てを理解するのは難しかった。終わってから日本語専攻の学生と交流する時間が数十分あり、最後に柳田國男の本についての出版記者会見のような催しに出席したが、こちらは全く分からなかった。総じて、学術的なことを学ぶにはまだスペイン語力が不足していることを痛感させられた。

## UNAM言語センター訪問（発表・交流） ／設樂創平

CEPEでの授業の後、UNAMを訪れた。TLP生から4人がスペイン語で、日本語を学んでいるUNAMの学生から4人が日本語で、それぞれ交代交代で発表を行った。UNAM生たちの発表は、自分の専門分野の研究からスペイン語の方言まで様々で、非常に興味深かった。発表の後、お互いへの質問タイムが用意され、好きな食べ物から言語学習の楽しいところ・難しいところなど、同じく第3言語を学ぶもの同士として様々な情報交換ができた。UNAMの学生たちが日本語に興味を持ったきっかけに漫画やアニメをあげており、Japanese cultureの影響力をあらためて感じた。具体的に見ていたアニメとして挙げてくれたものの中には、自分たちも知らないようなものもあり、いろいろなところで世界と繋がっているのだなと感じた。自分も、まずは、メキシコで買ったスペインで書かれた本を読もうと思う。その後は、発表者もそうでない生徒たちも一斉に混ざって、大規模な交流会となった。お互いが相手側の言語で話し合うというなんとも不思議な空間だったが、意外とコミュニケーションが取れた。授業を受けている際はスペイン語の力不足を痛感させられたが、ここでは1年半スペイン語を学んできた甲斐があったと思う。「赤飯」の話で盛り上がったり、ドラえもんを一生懸命説明したりと、話すうちに盛り上がってきて、時間が経つのが一瞬であった。ここでの交流をもとに、最終日にはUNAMの学生たちと共にメキシコシティを散策することになる。

## コヨアカン訪問／金成華琳

9月6日（金）、CEPEでの最後の授業を終えた午後にメキシコシティのCoyoacán地区を訪問しました。まずはフリーダ・カーロの生家であり今は美術館となっている、文字通り外壁が真っ青に塗られているCaza Azul（青い家）を訪れ、彼女の闘病生活や夫のディエゴ・リベラとの生活の様子を示す数々の家具・生活用品や有名な作品である“Viva la Vida”を含む彼女の作品を鑑賞しました。苦境の中にあっても力強く生き、メキシコを愛したフリーダのパワーに圧倒されました。続いて歩いて近くの市場へ向かい、そこで自由に散策しました。フルーツを模したわら編みのカバンやカラフルに彩色された骸骨や動物の置物、切り絵の飾りなど色とりどりのメキシコの工芸品が売られていました。また、食べ物も販売されており、中には昆虫食もありました。値切り交渉にも挑戦しながら各自お土産や食べ物を購入しました。夕飯を食べるレストランに向かう途中では教会を見学したりマリアチバンドの演奏を聞いたりメキシコの街中の雰囲気を楽しみました。曲芸師のパフォーマンスも見学しました。非常に賑やかで、投げて破裂させる爆薬で遊んでいる人が多いのが印象に残りました。夕飯にはCEPEでお世話になった先生方も加わり、先生の内の一人在誕生日だったため、朝のバス内で覚えたメキシコのバースデーソング (Las Mañanitas) を全員で歌って祝福して盛り上がりました。

## シウダデーラ訪問／吉川理子

CEPEでの授業の日々を終え、ようやく迎えた週末。午前中はシウダデーラ市場を訪れ、カラフルな手工芸品が所狭しと並ぶ光景に胸を躍らせながら、各自思い思いの買い物を楽しみました。そして昼食後には腹ごなしのお散歩がてら、大勢のお年寄りがダンスを楽しむために集まるという近くの広場へ移動しました。見学するだけかと思いきや、おじいさま、おばあさま方に手を引かれるがままにTLPの生徒たちも続々と輪の中へ取り込まれていき、思いがけず優雅なダンスの昼下がりを経験することとなりました。高齢者の孤独・孤立が社会問題となっている日本でも、こういった集いの場を普及させることが求められているのかもしれない、メキシコのお年寄りの生き生きとした笑顔を見ていたら、ふとそんなことを思われました。続いてバスに乗り、メキシコシティ中心部の歴史地区にあるソカロ広場へと向かいました。ここはメキシコの行政の中心地であり、独立記念日直前の週末ということもあってか、かなり多くの人でごった返し活気に溢れていました。街並みを飾るヨーロッパ風の建築の数々はどれも大変美しいものでしたが、スペイン人による征服後に、入植者がアステカ文明の都市を破壊して建設されたものであるという歴史を聞いて眺めると、複雑な気持ちが込み上げてきました。

## テオティワカン遺跡見学／松井新

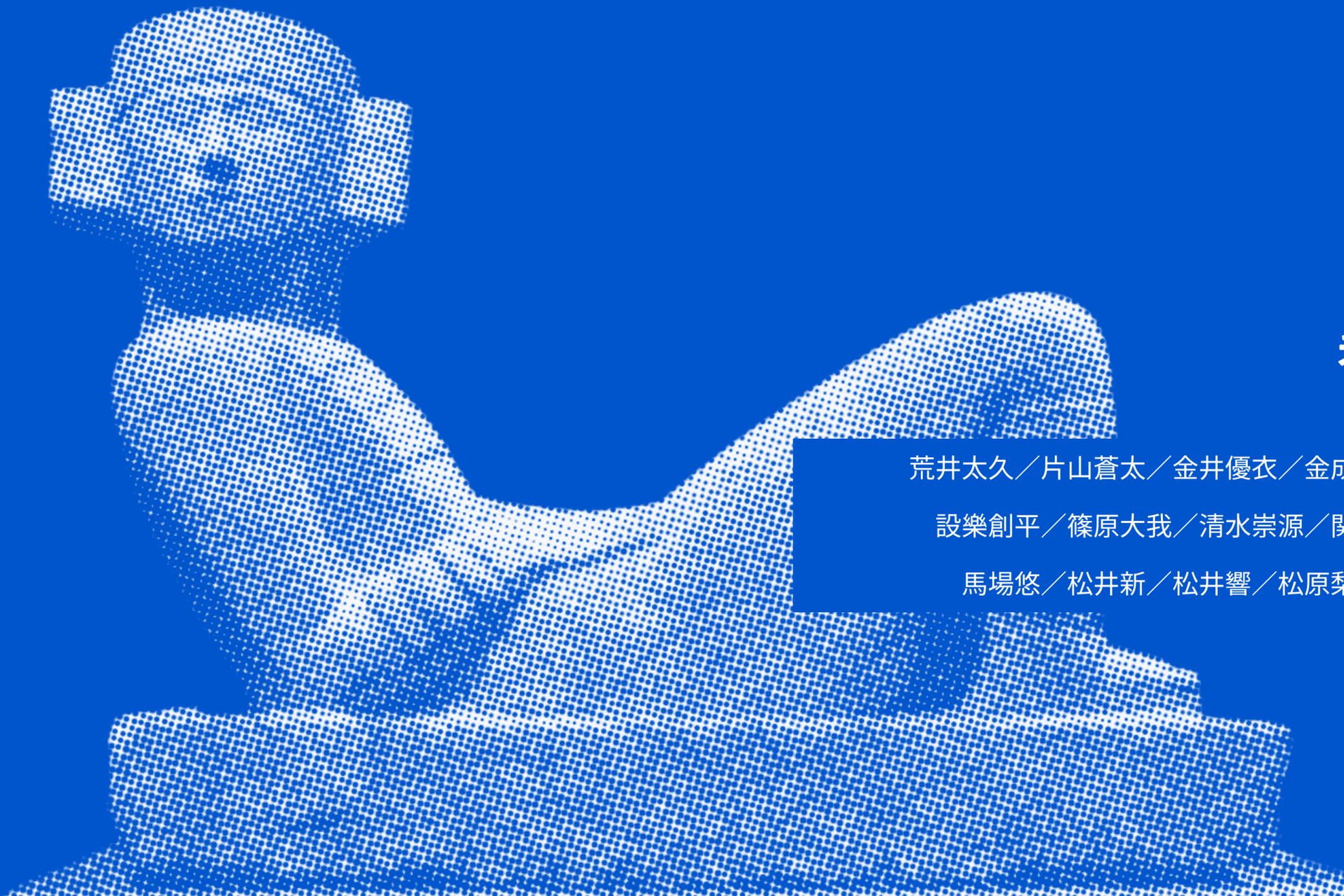
メキシコ研修の前半を過ごしたメキシコシティでの滞在も最終日となり、私たちは丸一日かけてテオティワカン遺跡を見学した。かつてテオティワカン文明の中心都市であったこの遺跡は、シティからバスでわずか1時間の郊外にあり、植民地化の歴史を経ても都市構造が大きく変わっていないことを実感した。敷地の北西にある駐車場で降り、「ジャガーの中庭」や「ケツァルパパロトルの宮殿」などのモザイクアートで飾られた遺跡を通り抜けると、「月のピラミッド」が私たちを迎えていた。テオティワカン遺跡は主に月と太陽のピラミッドで構成されており、これらを基点に古代都市の計画が行われていたようだ。月のピラミッドを見学した後、「死者の道」と呼ばれる大通りを進み、壁画や修復途中の遺構を横にしながら、私たちは「太陽のピラミッド」へと向かった。太陽のピラミッドはテオティワカン最大の構造物であるが、その規模は高さだけでなく、横にも広がっていて、人工物とは思えない自然の山のような姿をしていた。ピラミッドだけでなく、遺跡全体の圧倒的なスケールに感動すると同時に、CEPEでの授業や国立人類学博物館で教わった内容を実際に確かめることのできる貴重な体験であった。

## マニにある農業学校滞在／荒井太久

一抹の名残惜しさと共にCDMX(メキシコシティ)を発った我々は、CDMXから飛行機で二時間、メリダ国際空港からバスで同じく二時間の距離にあるU Yits Ka'an(マニ農業学校)に到着しました。「マニ」という言葉の意味は、”lugar donde todo pasó”, 「全てが起こった場所」という意味だそうです。メリダに到着した瞬間から森の中のマニ農業学校は一番近い集落から2 km以上離れていて、圧倒的な自然の存在感を感じさせてくれる場所でした。昼は学校で行なっている有機栽培や養蜂について説明を受け、夜には日本では見ることのできない多様な生物と触れ合ったり、満天の星を眺めることができました。ご飯も素晴らしく、全てマニ農業学校で栽培された野菜や肉を使っている、とのことでした。とりわけaguaと一般的に言われるジュース類(agua de pino, agua de Jamaica, agua de horchataなど)が絶品でした。料理を作っていたおばあちゃんの話によると、昔マニの地にはOshamambe(長万部?)という日本人が住んでいたが、日本に帰国後は戻ってこなかったそうです。そんな話をしながらおばあちゃんたちが作る料理はマニの伝統的な竈を使って火を炊くところから始まるなど、伝統的な方法が用いられていました。洗剤までも天然由来の素材を作っているそうです。マニの市街地を訪ねる機会もあったのですが、そこには大きな教会が建っていました。スペインによって建てられたようで、当時のスペインの布教活動の影響の大きさを感じさせるものでした。

## セノーテ訪問／北島有悟

メキシコでも有数の観光地、ユカタンにおいて、定番ともいえるのがセノーテである。ユカタンに何千とある、マヤの言葉で「聖なる泉」という意味をもつこの天然のプールは、水没した鍾乳洞の天井が陥没してできたといい、川の流れないユカタンの地で、貴重な水源として太古から人々の生活に密接してきた。この研修旅行では、今でも主に観光業によって地元潤いを与えている聖なる泉に実際に入ることができた。陥没した洞窟ということもあって、かなり深くまで階段を下った先には、想像を超える絶景が広がっていた。飛び込み台があったので高飛び込み大会に興じたり、バタフライで競ったり、鬼ごっこをしたりしたが、思ったより急に信じられないほど深くなるので、落とし物には注意。強がってライフジャケットのサイズを大きめにすると本当にやばいです。一通り楽しんだ後は昼食タイム。絶品サンドイッチを頬張り、ハンモックで一息をついてゆっくりと流れる時間に身を任せると、日本に戻りたくなくなること間違いなし。TLP研修ももう残り1/3、私たちは楽園を体験した。



## 参加者エッセイ

荒井太久／片山蒼太／金井優衣／金成華琳／川田寛／北島有悟／栞高健人

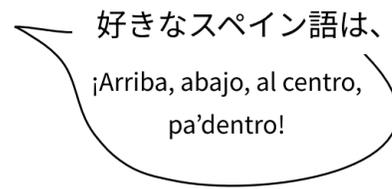
設樂創平／篠原大我／清水崇源／関亮輔／田中成美／田邊成／畑田直樹

馬場悠／松井新／松井響／松原梨夏／宮川貴浩／山崎夢芽／吉川理子

# Para bailar la Bamba

荒井太久

法学部進学



今、僕は飛行機の中でこれを書いている。なにせ書き始めたのが着陸の2時間前なので、どうせ書き終わらないだろう。回想と現在進行形の体験とがごちゃ混ぜになっているかもしれないが、ご容赦いただきたい。

メキシコに行きたいと初めて思ったのは中3の時、メキシコ人の生徒を中学の国際交流活動の一環でホストブラザーとして受け入れた時だった。浅草・雷門の前で臆面もなく歌い出す彼ら・彼女らを見て、こんな人たちがいるメキシコはさぞ明るくて面白いんだろうなあ、そんなことを思った記憶がある。(渡航前に久々に送ったメッセージがブロックされていたのはショックだった。)

そんな前からメキシコに行きたがっていたにも関わらず、渡航前のメキシコに対する理解が浅かったことは事実である。(同時にそれがそこまで悪いことなのか、と今となって問われるとなんとも言えない。それも旅の一つの形だと思う。)結局何があるのかよく分からない。メキシコ出身の有名人だって怪しい。タコスとソンブレロ、そしてマラカスの国、それが僕のメキシコ像だった。他の部分は何で満たされていたのだろう、とふと思ったが、たぶんアメリカのイメージで補完されていたのだろう。百聞は一見に如かず、というのはよくできた言葉で、僕のメキシコ像は滞在初日にして粉々に打ち碎かれることとなる。

メキシコの風景、食べ物など、すべてが心に刻み込まれているが、僕はやはりメキシコの人々を忘れることができない。メキシコシティは、東京と人の在り方が違った。赤の他人に話しかけることは決して珍しいことではない。人と人と

のコミュニケーション量に圧倒された。チェーン店のピザ屋で、店員たちが厨房でピザを作りながら熱唱していたとき。通りすがりの人に、「ハー！センセイ！」と言われて深々とお辞儀をされたとき。シウダデーラで、地元のおばあさま方とダンスを踊ったとき。思い出すとキリがない。フレンドリーを通り越して、人によってはお節介だと感じるくらいの距離感がそこにはあった。そんな人々に触発された僕のmexicanización(?)も進んで、気づけば初日からホテルの部屋でTくんとノリノリで歌っていた。メキシコの壁が全体的に薄めなのも相まって、廊下中に響き渡っていたらしい。お恥ずかしい限りである。この時によく歌っていた”La Bamba”が、この旅を思い出すたびに頭の中で流れる。この”La Bamba”に再会することになるのはテオティワカン観光のときで、唐突にレストランのテーブルの前に登場した夫婦のミュージシャンが歌ってくれた。歌った後でpropina (チップ)をお願いされたので、少し強引じゃないか、なんて思いながらもメキシコの地で生演奏の”La Bamba”が聴けた感動でやや高額なpropinaを渡したことを記憶している。実際すごく上手な演奏だった。その日の体験がとても印象深かったこともあり、よく覚えている。

マニでは全く違う面から人の在り方を学んだ気がしている。ただならぬ気配の漂うジャングルのような森—日本には明らかに存在しないタイプの森—で日々の営みを送るマニの人々。僕たちの世界とは全く違う世界に住む人々。利便性は損なわれるけれども、それを補うぐらいの美しい星空と自然、そして落ち着きがある。日本とのギャップに動揺している学生も多かった中、これが日常の風景であるマニの人々はそんな僕たちのことをどんな風に見ていたのだろうか。マニ農業学校でご飯を作っていたおばあさんとの会話が頭に残っている。

「どこから来たんだい？」

「ハポン(日本)からです。」

「とても遠いよねえ？昔ハポンから来た人がここに住んでい

て、先生をやっていたんだけど、国に帰った後戻ってこなかったんだ。」

そう語るおばあさんの顔に浮かんでいたあの表情は、彼がやはり違う世界の住人だったことへの諦観か、それとももっと別の感情だったのだろうか。今となってはそれを知る術はない。農業学校を経営している(と思われる)Padre Tilohは、農業学校を発つ日に、生態系のように人の輪は繋がっていて、その個々の関わりすべてが大切なのだ、そういう主旨の話をしてくれた。話のアプローチの方法は違えど、話していることは日本と変わらないなあ、と変なところで親近感を覚えた。そんな遠くてたまに近い場所、それがマニだった。

再びメキシコシティに戻った後、UNAM(Universidad Nacional Autónoma de México)の学生と交流する機会があった。彼らはマニの人々よりずっと僕たちの暮らしに近い生活を送っていた。加えて、彼らはアニメ・マンガなどの日本文化に対する造詣が深く、分かり合える部分が大きかったのも事実である。僕たちTLP生のために借りてくれたXochimilcoという船に乗って、メキシコの学生がJuan Gabrielという歌手のヒットソングを紹介してくれた。タイトルはその名も”No tengo dinero”(金がないけれども)だった。一学生として非常に身につまされる歌だったことは言うまでもない。邦題で日本語ヴァージョンも出ているらしい。けれども彼らはとても親切で、お昼ごはんを奢ってくれたり、アイスを買ってくれたりとホスピタリティに溢れていた。自分が仮に彼らの立場だったら、おもてなし先進国日本(?)の名を背負ってあのようなホスピタリティを発揮できるか、疑問に思ったことを白状せねばなるまい。無論彼らの生活にも浮き沈みはあるに決まっている。それでも総じて陽気で楽しそうな彼らを少し羨ましいと思った。

メキシコの人々、というのは何もメキシコ人に限った話ではない。この旅を語る上で忘れてはならない、というか忘れようがないのがGregory先生、武田さん、そしてTLPの皆である。このパートは謝辞のように見えるけれども、旅で関

わった人々としてれっきとした旅の報告の一部のつもりで書いている。Gregory先生には言うまでもなくあらゆる面でお世話になった。体調を崩しながらも学生たちをサポートしてくれた先生には感謝してもしきれない。武田さんは僕が体調を崩した時に超巨大な錠剤(通称、さやかさんの錠剤)を持ってきてくださったり、旅行中の相談を聞いてくださったり、やはりものすごくお世話になった。TLPの皆。本当に皆心の温かい人たちばかりである。大学に入ってこんなに気の合う人たち(と勝手に僕が思っているだけかもしれないが)も珍しい。一生の友達を見つけた気分であるし、彼らに出会えたことは大学四年間で大きな財産になったと言える。もしかしたらそれが大学四年間で一番大きな財産になるかもしれない。面と向かって言うのは非常に面映いので、この場を借りて感謝の気持ちを述べたい。Muchísimas Gracias.特に旅行中ずっと同部屋だったT君。ウォルマートの買い物に「お前いつも遅いからな」とボヤきつつも毎回付いてきてくれたこと、本当に感謝している。最高の友人である。

そんなこんなで報告書を書いているうちに、いつの間にかメキシコの旅が終わってから2ヶ月が経とうとしていて、しかも提出するのは僕がだいぶ最後の方、ときている。(度重なる遅延を編集委員の皆さんにお詫び申し上げたい。)この二ヶ月で自分の中身もまた日本化した。それでも、自分のどこかにはメキシコで得た底抜けの陽気さが存在しているし、どうやらそれは”La Bamba”のメロディーと同様に消えることはない気がするのである。

## Mis cosas favoritas

Taku Arai

Tacos, tamales, pozole y fajitas... Tengo muchas cosas que me gustaron durante el viaje a México. Las cosas pueden ser divididas en tres partes: comida, música y lugares. No creo que pueda presentar todas las cosas me gustaron, entonces voy a comentar solamente las cosas que me encantaron.

### 1. Comida

Me parece que comía tortillas todos los días en México. De hecho, comí arroz sólo en una comida, y además comía otras cosas. Fue una sorpresa porque yo, japonés, como el arroz casi todos los días. Entre las comidas de tortillas, me encantaron las quesadillas. Antes las había probado, pero las quesadillas en México... son MARAVILLOSAS. Las probé en el restaurante donde los estudiantes nos llevaron. El sabor del queso fue diferente. También, me gustó el alambre. Creo que lo probé en dos o tres restaurantes, y todos los platos fueron muy ricos, aunque fueron un poco difíciles de comer porque las formas de los alambres son planas. Todos los platos de taquería fueron buenos. Además de las comidas con tortillas, las bebidas que más me gustaron fueron las aguas. Hay muchos tipos de agua. Especialmente, agua de Jamaica y agua de horchata, estos son muy frescos. Agua de Jamaica es un tipo de agua que te gustaría nada más probarlo. Por otro lado, el agua de horchata no es un tipo de bebida que te gusta en un momento. Sin embargo, si vuelves a beberlo, notarás qué buena bebida es.

### 2. Música

Tengo una lista de reproducción (playlist) de música en español en mi móvil. Se llama “Viaje a México”. Todas las canciones son de este estilo. La primera canción que me gusta de México es “Huapango”, de Moncayo y en el sentido estricto no es canción, pero es obra sinfónica. Oí

esta música en la clase del CEPE, y según Wikipedia es como el segundo himno nacional. En la escuela, la profesora Estefany nos presentó la canción se llama “El noa noa” por Juan Gabriel. No sabía antes de ir a México, pero Juan Gabriel es uno de los cantantes más famosos en México. Pude conocer otra canción de Juan Gabriel, gracias a una estudiante de la UNAM. El nombre de la canción es “No tengo dinero”, y tiene la versión japonesa (Canega Nai Qeledo mo). La última canción es “Las mañanitas”, que cantamos para el día de cumpleaños del otro maestro, el profesor Rino. No sabía de las canciones además de la canción “Happy Birthday”, entonces la experiencia fue muy nueva para mí, y me gustó la canción.

### 3. Lugar

En mi mente, hay muchos lugares que no puedo olvidar. Uno de estos es la biblioteca de la UNAM. Tiene muchos colores, y es patrimonio de la humanidad. Es como una obra de arte. Por supuesto, otro patrimonio, Teotihuacán fue estupendo también. Después saber qué significan las pirámides en el CEPE, la escena tuvo sentidos más profundos. Además, el pueblo de Maní fue una experiencia que no puedo olvidar. La mezcla de la cultura cristiana y la maya fue única. ¡Con esas cosas yo soy muy feliz!



# めまぐるしい環境の変化 のなかで

片山蒼太

法学部進学

好きなスペイン語は、

Felicidades

私にとってメキシコに滞在した2週間は、日本では経験できないような環境の変化の連続でした。

正直なところ、行く前はメキシコという国に対して不安しか感じていませんでした。治安の悪さや衛生面の悪さなど、日本では当たり前のように享受していた環境がない地に2週間も身を置くことにあまり前向きになれずにいました。

いざエアロメヒコ航空の飛行機に乗ってみると座席のパネルは点かず、リクライニングは倒せないといった幸先の悪いスタートを切ることになってしまいました（機内食は美味しかったです）。そして現地に着くと前面のガラスが割れたバスに案内されたり、ホテルの金庫やクローゼットの扉が壊れていたり、訪問したショッピングモールの入り口に大きな銃を持った警官が立っていたりと、治安に対して不安な気持ちは増すばかりでした。

しかしながら、実際はそこまで不安を感じる必要はありませんでした。夜道を学生だけで歩いていても危険な目に遭うことはありませんでしたし、メキシコシティではスリなどの軽犯罪に遭う（もしくは遭いそうになる）瞬間は一度もありませんでした。CEPEや訪問した各所でも、比較的安全に過ごすことができたため、安心感を感じながら最初の1週間を楽しく過ごすことができました。

ただ、メリダではメキシコシティでの生活とは逆の意味で期待を裏切られました。マニ農業学校の環境は、普段の感覚では耐えることができないだろうと思うほどに劣悪で、虫や

コウモリが部屋を飛び交い、水回りも汚いような場所で3泊4日もすることなど、自分の意志では絶対に選択しないような環境に半強制的に身を置くこととなりました。スリやその未遂が自分の周りで増え始めるなどの治安の悪さも際立っていきました。しかしながら、それに対して文句を言いたいわけでは決してありません。むしろ逆です。普段我々が日本で享受している環境が、元から存在するような当たり前の環境ではないということや、その環境を普段享受できない人々も多くいるということに改めて気づかされました。グレゴリー先生にココナッツを割ってもらってみんなで少しずつ食べたり、真っ暗な車道で夜空を見上げたりすることもとても貴重な経験でした。

メリダでの3日目、昼のあいだは海でひたすら泳いだあと、マニにあるレストランに向かっている最中、急に体調が悪くなってしまいました。農業学校に帰っても何せ空調はシーリングファンしかなくハンモックで寝ていたような宿舍だったため、睡眠時間こそしっかり取れたものの、体調を完全に回復することはできませんでした。しかしながら、友達が持っている解熱剤や武田さんが持っていた薬とのおどしをもらうことができたため、症状をある程度緩和することができました。完全に症状が治ったのは帰国後でしたが、体調を崩した場合を考えて、市販薬を自分でも余裕をもって持っておくべきだったと思います。

そのように環境面においても健康面においても過酷な4日間を過ごした結果、メリダからメキシコシティに戻ってきたとき、メキシコシティの見え方は少し変わっていました。設備の整ったホテルに宿泊したり電車に乗ったりすることが、当たり前でない特別なことであると痛感しました。それは日本に戻ってからも日々感じていることでもあります。日本のインフラ設備がいかに整備されているか、日本の水回りの清潔感の維持のレベルがいかに高いかに対して改めて感動することになりました。

また、現地の人々のフランクな部分にも精神的に大いに助

けられました。初夜に行ったタコス屋の雰囲気魅了され、店員の方々にも毎回あたたかく歓迎されたため、最初の1週間のうち4回も足を運ぶことになりました。CEPEでもほとんどの人が厚遇してくれました。先生方が我々の意図や言いたいことを汲み取ろうとしてくれていた他、授業中のインタビューに答えてくれたCEPEの学生さんたちのオープンな姿勢には安心感を感じざるを得ませんでした。メキシコ最終日にはUNAMの学生たちが我々をもてなすためにプランを組み、Xochimilcoに連れて行ってもらいながら楽しくコミュニケーションをとることができました。彼らがアニメや音楽を中心に日本文化に対して興味を持ってくれており、加えて日本語を学習している最中ということもあったため、お互いに積極的に意思疎通をとることができました。私はアニメに対してはあまり詳しくなかったため、UNAMの学生に日本アニメの良さを教えてもらったりもしました。彼らとはInstagramのアカウントを交換して、お互いの言語を教えあったり近況について雑談したり、帰国後も何人かと連絡を取り続けています。そのような貴重な人脈をつくることができたのも、今回のメキシコ研修あってこそだったと思います。

総じて振り返って、メキシコでは日本とは全く違った環境、全く違った人々に囲まれながら、日々深く印象に残る2週間を送ることができました。日本人とは違った人々のあたたかさを感じながら、常に笑顔で生活することができたのも、メキシコという国の国風の恩恵であると思います。今回の研修でメキシコが大好きになったと同時に、他のスペイン語圏の国々も訪れてみたいと考えるようになりました。

そして最後に、TLPの仲間たちと2週間を共に過ごすことができたことが、なりより特別な経験となりました。日本の授業での関係からさらに仲良くなった人も、元々ほとんど話すことはなかったが現地でいきなり仲良くなった人も、それぞれ一人ひとりと関係を深め合いながら異国の地で一緒に生活できたことは貴重な経験となりました。みんなでショッピングモールや市場を散策したり、Cenoteで泳いだり、ホテルで

恋愛リアリティーショーを見て盛り上がった時間は、全て楽しくかけがえのない時間だったと思います。

改めて、1年間スペイン語を教えてください、加えて2週間我々を引率して下さったグレゴリー先生、初のメキシコで体調のすぐれない中で我々の面倒を見続けて下さった武田さん、そしてこのメキシコ研修に携わって下さったその他すべての方々に感謝申し上げます。これからもスペイン語の勉強を続けつつ、今回の経験を次に活かしていきたいです。



## La gente mexicana es amable

Sota Katayama

Estoy escribiendo este ensayo dos meses después de que fuimos a México, no recuerdo mucho sobre la lengua. Pero los recuerdos de las dos semanas de México no desaparecerá nunca. De hecho, no uso el español mucho porque normalmente estoy con mis amigos japoneses y hablo japonés con ellos. Por eso, no pude mejorar mi español en México. Pero, esto no significa que no me pude comunicar con los mexicanos. Yo disfruté mucho la comunicación.

Primero, creo que los mexicanos fueron más francos que los japoneses. Ellos no son tímidos cuando hablan con unas personas que conocen por la primera vez. Aunque mi español no es bueno, ellos siempre tratan de entender qué yo quiero explicar. Gracias a su actitud cálida, pude permanecer en un nuevo entorno sin sentirme nervioso. Por cierto, me sorprendió que la mayoría de los mexicanos no entiendan inglés. Durante las dos semanas, solo los asistentes de cabina en los aviones y un personal de la tienda en la UNAM hablan inglés y otras personas no hablan inglés. Los estudiantes de la UNAM que estudian japonés dijeron que ellos hablaban en japonés mejor que en inglés. Me sorprendió este hecho porque pensé que a menudo usan inglés ya que el país está al lado de EE. UU.

Además, los estudiantes de la UNAM que conocimos estaban interesados en la cultura japonesa. Animaciones y mangas japonesas son famosas en México y la mayoría de los estudiantes están familiarizados con más tipos de mangas que yo. Por eso, no les dije pero me dijeron por qué yo tenía que leer más mangas. Ellos estaban interesados en la música japonesa también. Unos de ellos ya conocían algunos músicos japoneses como Ado, King Gnu y ヨルシカ, y en el último día de México disfrutamos algunas canciones en un barco en Xochimilco. Gracias a las características de los mexicanos, disfrutamos mucho el país con sonrisas y muchos tipos de música. Unos de los

estudiantes de la UNAM son mis amigos muy importantes, incluso ahora, y nos enviamos mensajes unos a otros en Instagram. Todas las personas que yo conocí en México son tesoros muy preciosos. Algún día, me gustaría que nos viéramos otra vez en México o en Japón.

# 飛び込んでみることの楽しさ

金成華琳

法学部進学



メキシコ研修は、飛行機のモニターの不具合から始まった。離陸後すぐ再起動を始めたモニターはそのまま固まって動かなくなり、私は楽しみにしていた映画が観られなくなった上、日本時間では昼にあたるためあまり眠りにもつけない、12時間もの長いフライトを何もせずにひたすら耐えなければならなくなってしまった。3時間くらい経ったあと、モニターを直して欲しいとキャビンアテンダントさんに頼んだ人のモニターが回復したことを知り、自分もキャビンアテンダントさんに直談判しようと思いついて飛行機の後方へ向かった。アエロメヒコの飛行機だったため添乗員は基本的にメキシコ人で、そこで私は研修が始まって初めて先生以外とスペイン語を使って会話をした。色々試したけどどうしようもないの、と早口のスペイン語で言われてしまったので、結局直談判の試みは代わりにお菓子をもらったところで終わってしまったが、このときに、とにかく話してみてもよかったな、スペイン語も練習できたし、と達成感があったことが印象に残っている。

ところがメキシコに着いてからはむしろ自分からスペイン語を話すことに対して気後れをすることが多くなってしまった。お店での注文時など、必要があれば頑張ってスペイン語は喋るが、挙手制などで発言を避けられるときは避けてしまったり、喋る内容が用意できていない限りは自分から喋らなかつたりする日が数日続いた。着いた初日に行った公園でバスケットを一緒にしようと現地の人に誘われたときにも、咄嗟に参加しない方を選んでしまった。その頃は、毎日スペイン語の授業も受けているし、お店での注文も英語使っちゃうか

など思っていたけどスペイン語使えているしまあいいか、十分頑張ってる、と思っていた。

転機が訪れたのはCEPEでのある日の授業で、CEPEにいる人たちにスペイン語でインタビューをして条件に合う人を見つけ出す、というアクティビティをしたときだった。教室の外に出されて、知らない人に慣れないスペイン語で話しかける怖さと恥ずかしさで最初は途方に暮れるばかりだった。しかし友達の何人かが積極的に話しかけにいつているのを見て、勇気を出して話しかけに行った。すると話しかけた人がみんな非常に親切で驚いてしまった。挨拶をすると必ず返ってくるし、インタビューをさせてくださいと言っても嫌な顔をせずに丁寧に答えてくれる。メキシコの人たちって意外と笑顔を見せないからちょっと無愛想そうで怖いなど思っていたが、こちらからお話をすれば応えてくれるんだ、そして怖くても、というかむしろ少し怖いくらいの方がやり遂げたときに楽しいんだ、ということに気づいた。そういえばメキシコに来てからはできるだけ色々な食べ物を試してみようと思いつき、苦手かもしれない食べ物にも挑戦しているんだから、それと同じことをやってみよう、怖いからとやめるのではなくとりあえず挑戦してみようと思いついた。

その2日後と3日後にそれぞれ市場を訪れたが、そこでは regatear (値切り交渉) ができると伝えられていた。最初に切り出すのは怖かったが、これもやってみたらきつともっと楽しめるはずだと思いつき、手工芸品などの値切りができないと聞いていたもの以外は基本的に一度は値切りができないか聞いてみる、ということをやってみた。そこまでまけてもらうことはできなかったが、それでも値切りをしてもらえたこともあり、そういうときには安く買えたという嬉しさだけでなく、それ以上に値切りにチャレンジができたことへの嬉しさがあった。元々20ペソだった papel picado (メキシコの伝統的な紙の飾り) に対して、ものは試しだと “¿tiene un descuento?” (値下げしてもらえますか) と聞いてみたら、“Entonces, 30 pesos” (それじゃあ30ペソね) と値段を吊り

上げられるジョークを言われることもあり、ジョークだと理解するまで5秒くらい固まってしまってちょっと店員さんとしても気まずい雰囲気にしてしまったが、値上げに失敗してもそれはそれで面白かった。

あるときにはお年寄りの方々が社交ダンスを踊っている公園を通りがかり、見知らぬおじいさんにダンスを申し込まれるということもあった。私はダンスに関しては全然やり方を知らないの、ととてもできないと思って最初は断ったが、ふと、メキシコでもないこの先社交ダンスなんて踊る機会はないかもしれないし、今やってみないとあとで後悔するかもしれない、と思い、次に誘われたときにはダンスに加わって踊ってみることにした。ステップも何もわかっていないのでほぼあっちこっちに振り回されるだけで終わったが、とても面白く自然と笑顔になった。結局3人のおじいさま方に踊っていただき、ステップも少しだけ教えていただいた。スペイン語を話すということに関してだけではなく、体験においてもちょっと怖いことをやってみたら楽しさが倍増するということがあるんだなと実感した。この社交ダンス体験は日本ではなかなかできないような体験だったこともあり、メキシコでトップクラスに楽しかったことの一つである。もしこのときにダンスを拒否していたら本当に後悔していたと思うので、あのときに踏み出して良かったと今でも思っている。

2週間のメキシコ滞在で、スペイン語だけでなく、食や日常生活におけるメキシコの文化や先住民、独立の歴史をたくさん学ぶことができた。特に愛国心やナショナリズムについての話は、国旗に対する姿勢が日本と対照的でメキシコ人の先生が日本に対して驚いていたり、現地で Chino (中国人) と言われたり、それに対する友達の、予想よりも強烈的な反応を見て意外に思ったりするなど興味深かった。メキシコでスペイン語を話してみるというのを繰り返すうちに、苦手だった動詞の活用が以前に比べてスムーズになったのも感じることができた。しかしメキシコではそれだけではなく、少し怖くても飛び込んでみたら楽しいこと、飛び込んでみたら

自分次第でいくらでも学ぶ機会は広がることも学ぶことができた。そしてそれを可能にしたのはメキシコの人々の寛容さだと思う。変なことを言っても理解しようとしてくれたり、見守ってくれたり、招き入れてくれたりとチャレンジができる貴重な環境があったことでメキシコ研修がさらに楽しく意義深いものになった。

最後に、引率をしてくださったGregory先生、武田さん、その他関わってくださった先生方、そして一緒にメキシコで2週間を過ごしいつもモチベーションの源泉だったTLPメンバーに感謝申し上げたい。



## Convivir con la naturaleza

Kasumi Kanari

El primer lugar al que fuimos en México fue la Ciudad de México. Es una de las ciudades más grandes de América Latina. Estuvimos en un hotel cómodo que tiene restaurantes y un supermercado cerca, y pudimos ir a comprar las cosas que necesitábamos y pedimos que nos lavaran la ropa. La conveniencia de la vida aquella fue más o menos la misma que en Japón.

Cuando fuimos a Mérida, la situación cambió. Al principio, me sorprendió que el aeropuerto fue más bonito que el de la Ciudad de México. El suelo es de mármol y había muchas tiendas bonitas. La luz es más clara. Sin embargo, una vez que salimos del aeropuerto, el paisaje estaba cubierto de la naturaleza.

Uno de los que me sorprendió es la carretera. A ambos lados de la carretera las plantas altas crecieron y no hay otras cosas. En Japón también hay lugares donde no hay personas, pero normalmente está rodeado de los arrozales y las plantas son muy bajas, o el bosque. Las plantas que son altas, pero no más altas que las de los bosques que me parecieron silvestres creciendo por todos lados, fue un escenario que nunca he visto antes. De vez en cuando las ciudades aparecían y pudimos ver a las personas, tiendas y electricidad, pero de lo contrario, no hay signos de electricidad o de vida. Me puse nerviosa especialmente por la noche porque creía que, si el autobús se detenía, nos quedaríamos en un lugar completamente natural. Viviendo en una ciudad que siempre está iluminada, había olvidado el sentimiento de temor hacia la oscuridad y la naturaleza, pero lo recordé al caminar por la carretera.

La otra cosa de la que me acuerdo bien es que no teníamos nada que hacer cuando estábamos en Maní. No pudimos usar el móvil tanto porque el Wi-Fi no era fuerte, y no hay teles. Como resultado, tuvimos que encontrar algo para divertirnos. A lo primero, no tuve ninguna idea

sobre lo que iba a hacer y estuve aburrida. Me pregunté qué era la vida sin móvil cuando era niña. Pero poco a poco, recordé la manera de pensar en cosas interesantes que hacer. Encontramos un coco y lo usamos como una pelota para jugar, y después lo rompimos y comimos. Fuimos a ver las estrellas por la noche y vimos la luz de luciérnagas y las estrellas fugaces.

Lavamos las ropas cantando. Jugamos con un gatito con hierba. Todos fueron divertidos y son buenos recuerdos. Querría utilizar los dispositivos electrónicos con menos frecuencia. A pesar de los inconvenientes, creo que mi estancia en Maní nos recordó la importancia de convivir con la naturaleza. En U Ytis Kaan, hay pocos plásticos desechables y utilizan su propio gas para cocinar. Reflexioné sobre mi vida cotidiana, en la que estoy usando cada vez más plástico y electricidad. La vida urbana es cómoda, pero siento que he perdido mucho.

# Más despacio, por favor

金井優衣

教養学部統合自然科学科進学

好きなスペイン語は、

Adelante

私がメキシコ滞在中に最もよく使ったスペイン語のフレーズは”Más despacio, por favor.(もっとゆっくり話してください。)”で間違いないだろう。TLPで一年半の間、他の学生よりも多くスペイン語を勉強したとはいえ、大学生になって初めて習った言語を使って2週間生活することに、行く前は不安を覚えていた。私は文章の読み書きより会話が苦手で、特に聞き取りに関しては、授業でスペイン語のドラマを見た時には0.5倍速で何度も字幕と一緒に聞き直してやっと理解できるほどだった。そのため、スペイン語ネイティブと会話ができる自分が想像できず、正直、メキシコ研修は楽しみなのと同じくらい不安でもあった。実際、メキシコに到着して最初の数日は、レストランで店員さんが言ったことや授業で先生が時折早口で話したことを他のTLP生が聞き取れていることに焦りを感じながら、誰かが日本語に訳してくれるのを待つことしかできなかった。しかし、それではせっかくメキシコに来た意味がないと思い立ち、多用し始めたのが”Más despacio, por favor.”だ。TLPの授業でもサンブラノ先生などネイティブの先生との会話などでこのフレーズに助けられたことが多々あり、ゆっくり話してもらっただけで同じ内容でも格段に理解しやすくなることは経験から分かっていた。実際、スピードを落としてもらうだけで会話はだいぶしやすくなったのだが、得られたものはそれ以上にあり、このフレーズを使う中で、私はメキシコ人の優しさを感じることができ、それがお守り代わりとなってチャレンジ精神を育むこともできた。

お国柄としてメキシコ人は温かくて気前が良い人が多いと

聞いたことはあったが、実際その通りで、”Más despacio, por favor”と言うと、皆嫌な顔一つせずによく丁寧に話してくれた。たくさんのエピソードの中でも特に優しさを感じたのは、UNAM学生との交流だ。UNAM学生とはプレゼンの発表会で交流があったのだが、発表会の後、私はUNAMの学生と話したいとは思いつつも伝えたいことをすぐにスペイン語にできる自信がなく、自分から話しかけられずにいた。そんな私に一人の学生が話しかけてくれ、その友達も集まった結果、いつの間にかUNAM学生のグループに一人囲まれるような状況になっていた。たくさんの人と知り合える状況はうれしかったのだが、色んな方向からスピーディーに聞こえてくるスペイン語になかなか答えられず困ってしまった。そこで、手を挙げて「待ってください」というジェスチャーをしてから”Más despacio, por favor”とお願いしてみたところ、UNAMの学生たちは「話すのが速くてごめんね」とゆっくりはっきり話してくれるようになり、私が一度で質問を理解できなくても、「僕たちも日本語はまだまだだからお互い様だよ」と笑いながら質問を繰り返してくれた。そこからは気持ちもすごく楽になり、アニメや邦楽の話で盛り上がることができ、メキシコの若者言葉も、何度も”Más despacio, por favor”と言いながらレクチャーしてもらった。他にも、授業の一環でキャンパス内の人にアンケート調査をしたときには、私の”Más despacio, por favor”に対して相手の女性がただゆっくり繰り返すだけでなく、「大丈夫？理解できた？」と確認してくれたり、公園でバスケットボールをしていた男子が話しかけてくれ、少しだけ一緒にバスケットボールをしたこともあった。会話に自信のなかった私にとって、フレンドリーで寛容なメキシコ人たちと楽しく交流できたことは、その後の研修生活を過ごす中で大きな支えとなった。

”Más despacio, por favor”というフレーズに快く応じてもらえた経験のおかげで、私はたどたどしくても会話を試みる姿勢が大事なのだと思うようになった。それはリスニング

面だけでなく、スピーキング面にも通じ、伝えたいことにぴったりなスペイン語が思いつかなくてもジェスチャーや知っている単語を組み合わせで伝えたり、知らない単語が出てきたときにはこういう意味ですか？と確認したりしてやり取りをした。今考えてみると、TLP生は皆スペイン語の学習に意欲的で優秀なこともあり、流暢に会話できている人も少なくなかったため、「上手なスペイン語で話さなくてはいけない」と無意識に気負い過ぎていた部分もあったかもしれない。もちろん、研修の大きな目的の一つにスペイン語力の向上があるため、流暢な会話を目指すことも大切なのだろうが、それ以前にまず自分の今持っているスペイン語力を最大限使って会話してみることが必要だと実感した。拙くても一生懸命話せば馬鹿にせず笑顔でやり取りしてくれるメキシコ人の優しさに勇気づけられて、とりあえずチャレンジしてみなくちゃもったいないと現地の人との交流に積極的になった。その姿勢が功を奏したのか、広場でダンスに誘ってくれたおじさんやスーパーでおもちゃをくれた女の子など素敵な出会いがたくさんあった。最終日にはUNAMの学生にソチミルコを案内してもらったのだが、私は何度も”Más despacio, por favor”と図々しくも頼み、その度に笑顔で繰り返してもらって仲良くなることができた。ちなみに、この時交流した学生とはインスタグラムのDMで今でもお互いにスペイン語、日本語を教えあいながらやり取りをしている。

メキシコ研修中、「上手くなくてもとりあえずやってみる」を繰り返し、それを受け入れてもらえた経験は私にとって大きな糧となり、自分の新たな可能性にも気づくことができた。成長するにつれて新しいことや苦手意識を持っていることへの挑戦に抵抗を感じるようになっていたが、研修前とくらべてチャレンジ精神が旺盛になったように思う。時期としてもちょうど所属が後期課程へと移行するタイミングであり、新しい環境、生活に身を置く中でこのチャレンジ精神を生かして失敗を恐れずに自分の可能性を開拓していきたい。

## Más despacio, por favor

Yui Kanai

Durante mi estancia en México, una de las frases que más usé fue “Más despacio, por favor.” Aunque había estudiado español en el programa TLP durante un año y medio, al llegar a México no estaba segura de hablar y, sobre todo, de escuchar. Los mexicanos hablaban muy rápido y en los primeros días solo podía esperar a que alguien tradujera lo que escuchaba. Sin embargo, me di cuenta de que era importante aprovechar al máximo esta experiencia, así que comencé a pedirle a la gente que hablara más despacio. Esta frase me permitió no solo entender mejor, sino también sentir la amabilidad de los mexicanos, quienes siempre respondieron con paciencia y una sonrisa.

Uno de los momentos más significativos fue el intercambio con estudiantes de la UNAM. Después de una presentación, un estudiante se acercó para conversar, y de repente me vi rodeado por varios de ellos. La rapidez con la que me hablaban desde todas las direcciones me abrumó, así que usé “Más despacio, por favor” y el gesto de “esperen un momento”. Los estudiantes se disculparon por hablar rápido y empezaron a hablar más claro y despacio, e incluso repitieron las preguntas si no las entendía al primer intento. Me dijeron que ellos también estaban aprendiendo japonés, así que entendían la dificultad. Gracias a esa comprensión, pude relajarme y disfrutar de una conversación amena sobre anime y música japonesa. Me enseñaron palabras coloquiales mexicanas, y yo seguí pidiendo “Más despacio, por favor”, cada vez que lo necesitaba.

En otras situaciones, como en encuestas en el campus o mientras jugaba baloncesto con un chico en un parque, siempre encontré la disposición de los mexicanos para ayudarme. Esta experiencia me enseñó que lo más importante no era hablar perfectamente, sino intentar comunicarme con los recursos que tenía. Los mexicanos

me respondían siempre con simpatía y paciencia, lo cual me animó a ser más proactivo en mis interacciones.

A través de estos intercambios, entendí que aunque uno no hable con fluidez, esforzarse en comunicarse es lo que realmente cuenta. Esta lección fortaleció mi espíritu de desafío y me dio la confianza para enfrentar nuevas experiencias.

